

今日のキーワード

中国の「通貨制度」(中国)

中国の「通貨制度」は、中心となる交換レート(基準値)とその変動幅が定期的に調整される変動相場制です。中国人民銀行は11日、基準値の算出方法を、前日の終値との乖離を縮小する方法に変更しました。変更初日、基準値を人民元安方向に設定したため、「人民元切り下げ」と解釈されました。13日まで続いた対ドルでの切り下げ幅は、合計5%弱になりました。

ポイント1

一定の範囲内で通貨の変動を許容する変動相場制

変動許容幅は徐々に拡大、対ドルでは上下2%

- 中国は2005年7月に、事実上の固定相場制から一定の範囲内で通貨の変動を許容する変動相場制に移行しました。厳密には、基準値を定期的に変更し、必要に応じて変動幅も定期的に調整するクローリング・バンド制と呼ばれる制度です。変動幅は通貨毎に設定されます。
- 1日当たりの変動許容幅は徐々に拡大され、現在対ドルでは基準値の上下2%となっています。

ポイント2

基準値の算出を、市場実勢との乖離を縮小するよう変更 大幅切り下げは終了

- 基準値は、中国外貨取引センターが取引開始前に市場参加者から報告される為替レートを基に決定し、毎朝公表します。人民元の対ドル実勢レートは、年初からの基準値よりも人民元安方向に乖離する傾向が続き、8月10日までの基準値と終値の平均乖離率は1.5%でした。
- 今回、この基準値を市場実勢に沿って乖離率が縮小するよう改めたことが、「人民元切り下げ」と解釈されました。乖離率は13日に0.0%となって、乖離は解消され、大幅な切り下げ局面はいったん終了したと見られています。

人民元の対ドル為替レート

月日	基準値 人民元/ドル	終値 人民元/ドル	乖離率
1月5日	6.1248	6.2201	1.6%
1月6日	6.1256	6.2134	1.4%
1月7日	6.1269	6.2128	1.4%
⋮	⋮	⋮	⋮
8月10日	6.1162	6.2097	1.5%
8月11日	6.2298	6.3250	1.5%
8月12日	6.3306	6.3858	0.9%
8月13日	6.4010	6.3982	0.0%
8月14日	6.3975	-	-



(注) データ期間は2015年1月5日から8月14日。乖離率は終値を基準値で割って算出。1月5日の乖離率1.6%は、終値が基準値よりも1.6%米ドル高・元安の水準にあることを示す。赤字は新しい算出方法による基準値と乖離率。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

段階的に資本移動と通貨取引の自由化を進める

■目指すは、資本移動と通貨取引の自由化

国際金融制度には、①為替相場の安定(固定相場の維持)、②独立した金融政策、③自由な資本移動、この3つを同時に達成することは出来ない「国際金融のトリレンマ」という命題があります。中国はこれまで、①と②を選択していましたが、今後は①を放棄し、②と③を選択し、資本移動と通貨取引の自由化を段階的に進めると見られます。

■極端な人民元安進行の可能性は小さい

現時点の通貨制度はこの移行過程にあり、当局が適切と判断すれば、基準値や変動幅の変更や通貨介入によって、人民元を管理することが可能です。この点を踏まえれば、この先極端なペースで一方向的に人民元安が進行する可能性は小さいと見られます。

ここも チェック!

2015年08月14日 株価下落でも堅調な「消費の新潮流」(中国)

2015年08月11日 中国、人民元を切り下げ、輸出振興により製造業強化へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。